

抗議・要望書

大飯原発3号の循環水管で直径4cmの穴あき事故

大飯原発3号の運転を直ちに停止して、原因を究明すべき

関西電力株式会社 社長 森本孝様

原子力規制委員会 委員長 更田豊志様

関西電力は8月5日に、大飯原発3号の循環水管の接続配管部に直径約4cmもの貫通穴があいていたことを確認しながら、原発の出力を低下させただけで、運転を続けている。原子力規制委員会も、関電の原因究明と対策を確認していくとするだけで、運転停止を求めている。

関電と規制委のこのような安全軽視の姿勢に断固抗議する。直ちに運転を停止すべきだ。

関西電力は8月4日、大飯原発3号で、復水器に海水を送るA・B2系統ある循環水管のうち、A一循環水管のベント弁付近から海水漏れが生じていることを確認し、点検のためにA一循環水ポンプを停止したと発表した。1系統の循環水ポンプを止めると、復水器で2次冷却水を冷やす機能が半分に低下し、原子炉の十分な冷却ができなくなってしまう。ところが、関電は原子炉出力を約65%に低下させるだけで、運転を続けた。翌5日には、循環水管の接続配管に直径約4cmもの貫通穴が空いていたことを確認しながら、現在もなお運転を続けている。

関電はこの接続配管について、昨年7月から実施した定期検査での目視点検では、異常は見つからなかったとしている（8月6日付福井新聞、7日付毎日新聞）。そして点検後の7月3日に原子炉を起動した。起動前に異常がなかったとすれば、わずか1ヶ月で直径4cmもの貫通穴があいたことになる。前回定検における点検にずさんな点はなかったか、目視点検で済ませたことに問題はないのか、損傷の見落としはなかったかが問われる。他の部位でも同様の損傷が起りえる状態にある。運転を停止した上で、この部位にとどまらず、プラント全体を総点検すべきだ。

大飯3号では昨年8月にも、一次系の加圧器スプレイライン配管溶接部でこれまでにないタイプの深い亀裂が生じていた。関電は当初、配管を取り替える必要はないと主張していた。点検の結果、溶接熱影響部で応力腐食割れ（SCC）が起こったと判断し、対策として他のプラントを含め水平展開して点検するとした。しかしその対象を限定し、大飯3号では51ヶ所にとどめた。規制委もこれを容認した。

このような安全軽視の姿勢が、事故を相次いで引き起こす要因となっていると言わざるを得ない。関電・規制委はこのことを重く受け止めるべきだ。以下を強く要望する。

要 望 事 項

1. 関西電力は、大飯原発3号を直ちに停止すること。その上で、今回の循環水管の接続配管損傷事故の原因究明を行い、さらにプラント全体の総点検を行うこと。
2. 原子力規制委員会は、大飯3号の運転を停止して原因を究明するよう関電に求めること。

2021年8月10日 避難計画を案ずる関西連絡会/ 原発なしで暮らしたい宮津の会/

ふるさとを守る高浜・おおいの会

(避難関西の連絡先団体：グリーン・アクション/ 原発なしで暮らしたい丹波の会/

脱原発はりまアクション/ 原発防災を考える兵庫の会/ 美浜の会/ 避難計画を考える滋賀の会)

この件の連絡先 グリーン・アクション 京都市左京区田中関田町 22-75-103 TEL：075-701-7223

美浜の会 大阪市北区西天満 4-3-3 星光ビル3階 TEL：06-6367-6580